

EOSJ
Ergophthalmological Society of Japan

第62回
日本産業・労働・交通眼科学会

予稿集

会期 2020年11月14日(土)~11月30日(月)

会場 WEB開催

会長 岩淵 成祐 昭和大学江東豊洲病院眼科 教授

第62回日本産業・労働・交通眼科学会事務局



昭和大学江東豊洲病院眼科

第62回 日本産業・労働・交通眼科学会

予稿集

INDEX

ごあいさつ	1
学会案内	2
講演規定	3
講演上の注意事項	4
日本産業・労働・交通眼科学会 理事	5
プログラム	6
抄 録	
特別講演	9
一般講演	13
広 告	(1)

ごあいさつ



第62回日本産業・労働・交通眼科学会

会長 岩渕 成祐

昭和大学江東豊洲病院 眼科 教授

第62回日本産業・労働・交通眼科学会の会長を昨年拝命し、準備を重ねてまいりました。この学会は私が眼科医になり初めて発表を行った学会であり、その会長を務められることは、大変光栄です。当時はシートベルトの着用が普及しておらず、自動車のフロントガラスも合わせガラスではないこともあり、フロントガラスによる悲惨な眼外傷の症例を発表したことを覚えております。あれから30年を経て、シートベルトはみな装着するようになり、フロントガラスも合わせガラスになり当時のような症例を経験することもなくなりました。本学会がこのような交通事故による悲惨な症例の減少に寄与してきたことは言うまでもありません。

今回、2020年1月に中国武漢で始まった新型コロナウイルスがあっという間に全世界に拡散しました。3月初旬の時点では、11月には収まるだろうと楽観しておりましたが、3月下旬には東京オリンピックも延期となり、8月にも再流行が見られ、10月になっても収まる兆しは見られません。そのため、新たな試みとしてWebでのオンデマンド開催をすることといたしました。初めての開催形式のため、色々と不自由な点もあるかと存じますが、ぜひ学会で知見を広めていただければと存じます。

学会案内

参加受付

会 期：2020年11月14日(土)～11月30日(月)

開催方法：Webにて on demand 形式で開催

受 付：Webにて実施

受付期間：11月1日(日)～11月28日(土)まで

参加費：会 員 3,000円、非会員 8,000円

学 生 1,000円 *研修医・大学院生・留学生・コメディカル

理事会

日 時：2020年11月14日(土)17:00～18:00

会 場：Webにて実施

専門医制度

- 本学会は日本眼科学会専門医制度生涯教育事業(No.59062)に認定されております。
- 今年度は Web 開催のため取得単位は2単位です。
- Web にて申し込み時に会員番号、所属都道府県をご登録ください。

予稿集

予稿集は本会ホームページより PDF 版をご覧ください。印刷版はございません。

<http://square.umin.ac.jp/eosj62/index.html>

講演規定

講演形式

- 動画もしくはプレゼンテーションファイルにて配信いたします。

講演時間

- 演題発表時間は15分以内となるようにお願いします。

発表形式

- 演題は Microsoft powerpoint もしくは Keynote で作成し、mp4形式もしくは ppsx 形式で保存したものを11月12日(木)までにアップロードしてください。
- スライド内に利益相反(COI)について入れてください。

講演上の注意事項

- 今回は座長による進行はありません。Webにて on demand 発表となります。期間中にご覧ください。
- 質疑応答は、メールにて期間中にお願いいたします。
- 発表スライドや画像のキャプチャー、動画のダウンロードはお断りいたします。
- その他ご不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

第62回日本産業・労働・交通眼科学会事務局

昭和大学江東豊洲病院眼科学講座

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL：03-6204-6230 FAX：03-6204-6998

E-mail：iwabuchi@med.showa-u.ac.jp

URL：http://square.umin.ac.jp/eosj62/index.html

日本産業・労働・交通眼科学会 学会本部事務局

昭和大学医学部眼科学講座

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

TEL：03-3784-8553 FAX：03-3784-5048

E-mail：koutuganka@med.showa-u.ac.jp

URL：http://square.umin.ac.jp/EOSJ/

日本産業・労働・交通眼科学会 理事

理事長	恩田 秀寿	昭和大学医学部眼科学講座
	阿山みよし	宇都宮大学大学院工学研究科 情報制御システム科学専攻
	市川 一夫	(医)いさな会 中京眼科
	稲富 誠	昭和大学医学部眼科学講座
	植田 俊彦	二本松眼科病院
	魚里 博	東京眼鏡専門学校 日本眼鏡学会
	岡嶋 克典	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 社会環境と情報部門
	川守田拓志	北里大学医療衛生学部視覚機能療法学
	神作 博	中京大学
	小出 良平	学校法人昭和大学
	近藤 寛之	産業医科大学医学部 眼科学教室
	斎田 真也	神奈川大学 人間科学部
監事	鈴木 弘隆	すすむら眼科
	高橋 春男	昭和大学医学部眼科学講座
	高橋 広	北九州市立総合療育センター 眼科
	田中 清	信州大学学術研究院
	仲泊 聡	国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター 網膜再生医療研究開発プロジェクト
	中野 匡	東京慈恵会医科大学附属病院 東京慈恵会医科大学眼科学講座
	和氣 典二	神奈川大学 視科学研究所

プログラム

特別講演

交通外傷に関わる現状と対策

恩田 秀寿 昭和大学医学部眼科学講座

一般講演

01 アルブミン懸濁型パクリタキセルが原因と考えられた両眼性黄斑浮腫の一例

○平野 彩、和田 清花、西崎 理恵、砂川 珠輝、小菅 正太郎、上條 由美、岩渕 成祐
昭和大学江東豊洲病院 眼科学講座

02 梅毒性ぶどう膜炎の一例

○平野 彩¹⁾、和田 清花¹⁾、西崎 理恵¹⁾、砂川 珠輝¹⁾、薄井 隆宏²⁾、小菅 正太郎¹⁾、
上條 由美¹⁾、岩渕 成祐¹⁾
1) 昭和大学江東豊洲病院 眼科学講座、2) 昭和大学横浜市北部病院 眼科学講座

03 眼内レンズ眼に対して後房型 ICL のピギーバック挿入が有効であった1例

○和田 清花¹⁾、小菅 正太郎¹⁾、砂川 珠輝¹⁾、平野 彩¹⁾、岩渕 成祐¹⁾、恩田 秀寿²⁾、
高橋 春男²⁾
1) 昭和大学江東豊洲病院 眼科学講座、2) 昭和大学 眼科学講座

04 低温調理したイノシシを摂取後に発症したと思われる 後天性眼トキソプラズマ症の一例

○當重 明子、横山 康太、浅野 泰彦、寫寄 創平、福岡 聖也、恩田 秀寿
昭和大学 医学部 眼科学講座

05 草刈機刃の破片が刺入した片眼角膜異物、片眼眼内異物の一例

○宮澤 和基¹⁾²⁾、山口 幸寿²⁾、恩田 秀寿¹⁾
1) 昭和大学 医学部 眼科学講座、2) 友愛記念病院

06 眼球破裂に対し段階的に手術を施行し眼内レンズ強膜内固定術を施行した1例

○寫寄 薫、禪野 誠、菊池 孝哉、木佐貫 祐揮、塚越 美奈、遠藤 貴美、薄井 隆宏
昭和大学横浜市北部病院 眼科学講座

07 手術侵襲により惹起された角膜乱視に対し Toric IOL 交換手術が奏功した1例

○禪野 誠、薄井 隆宏、菊池 孝哉、木佐貫 祐揮、寫寄 薫、塚越 美奈、遠藤 貴美
昭和大学横浜市北部病院 眼科学講座

08 水晶体脱臼術後、眼球破裂を認めた症例で問診にて職場暴力が発覚した1例

○太田 博之、栗家 亜実、高橋 春男、藤澤 邦見

医療法人社団 御代田中央記念病院

09 大学病院と地域の連携について

○岡和田 英昭

医療法人社団岡昭会 眼科なかのぶ医院

10 50年前の外傷性白内障に対してフェムトセカンドレーザー 白内障手術を施行した1例

○大塚 優、西村 栄一、吉田 健也、権 慶花、徳永 義郎、早田 光孝

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 眼科学講座

11 穿孔性角膜外傷・外傷性白内障に対し、2期的に水晶体再建術を施行した1例

○吉田 健也¹⁾、西村 栄一¹⁾、吉野 正範²⁾、杉山 奈津子¹⁾、徳永 義郎¹⁾、早田 光孝¹⁾

1) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 眼科学講座、2) 総合高津中央病院

12 高齢者色覚再現と表示時間変化に対する色視力の測定

○小蔵 拓海¹⁾、田中 芳樹²⁾、横山 翔³⁾、加藤 幸仁²⁾、洞井 里絵²⁾、田中 清⁴⁾、
市川 一夫²⁾

1) 信州大学 大学院 総合理工学研究科 工学専攻 電子情報システム工学分野、

2) 中京眼科、3) 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院、4) 信州大学学術研究院(工学系)

13 薄暮下での高視認性の検討

○飯塚 達也¹⁾、川守田 拓志²⁾、竹中 直³⁾、辻 創⁴⁾、金井 博幸⁵⁾、平井 利博⁵⁾、
鈴木 裕生⁶⁾、半田 知也²⁾、石川 均²⁾⁷⁾

1) 北里大学大学院 医療系研究科、2) 北里大学 医療衛生学部、

3) 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター、4) 一般財団法人カケンテストセンター、

5) 信州大学、6) アゼアス株式会社、7) 北里大学 医学部 眼科学

A series of horizontal dashed lines for writing.

特別講演

交通外傷に関わる現状と対策

恩田 秀寿

昭和大学医学部眼科学講座

交通眼外傷を検討する上で交通事故統計と社会的背景、つまり、交通システム、自動車開発、法律や規制改正、人口体系、ドライバーの交通に対する意識などを吟味することは当然のことである。当科における交通事故が原因で受診する患者数は近年減少している（印象がある）。これは眼外傷診療を継続してきた一施設の単純な傾向なのか、それとも、社会的背景が明らかに影響しているのか。社会的背景の影響があるとすれば、どのような事象なのか。また本講演では時代ごとに認める社会的背景と特徴的な眼外傷について述べる。

交通外傷統計を読むと各時代の交通社会情勢をうかがえる（図：交通事故死者数の推移 警察庁交通局「平成29年における交通死亡事故の特徴について」より抜粋。 https://www.npa.go.jp/publications/whitepaper/index_keisatsu.html）。昭和の高度経済成長期には自動車台数急増によって重症外傷が増加していた。平成に入るとシートベルト義務化やエアバッグ車内常備によって交通外傷が減少した。自動車事故ではシートベルト義務化前後で眼外傷の特徴がある。義務化以前はフロントガラス外傷が大半を占め、強角膜裂傷、眼球破裂による失明がしばしばみられ、義務化後はフロントガラスによる眼外傷が激減した。しかしエアバッグによる新たな眼外傷が見られるようになった。自転車事故では外傷の比率は年々増加傾向であり、眼外傷においては転倒時の外傷性視神経症や眼窩骨折がしばしばみられる。予防にはヘルメットの装用が有効である。

将来的に衝突などの交通事故に伴う交通眼外傷は減少していくのではないかと推測する。自動車運転技術の進歩や交通インフラストラクチャーの整備により、実際に某自動車メーカーも掲げている目標だが、遠い未来には自動運転が常態化し交通事故ゼロの時代が到来するだろう。そして未来型都市（スマートシティやスーパーシティと呼ばれる）の構築により、交通に関してより安全な社会が成り立っていくことだろう。

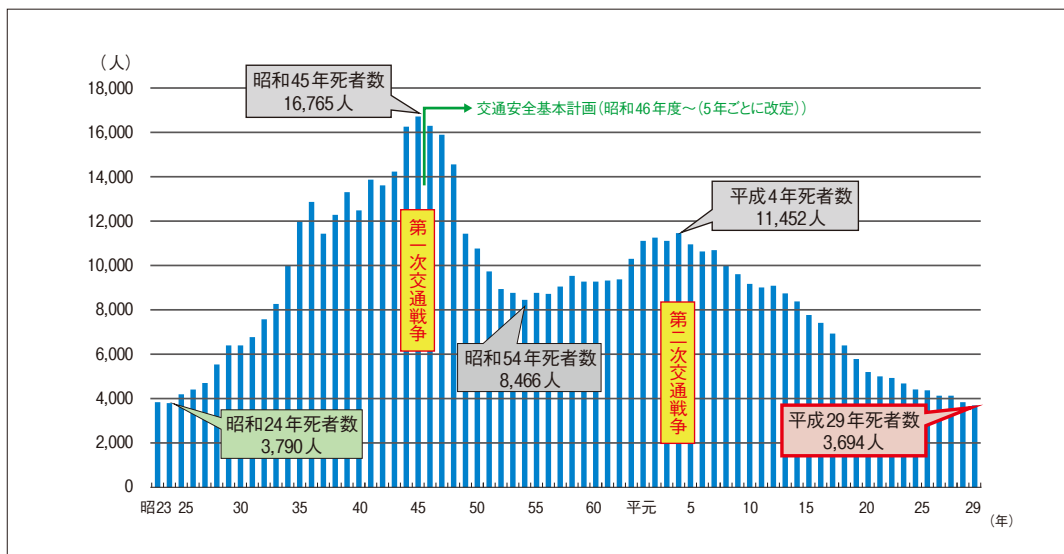


図 交通事故死者数の推移 (昭和23年～平成29年)

略歴

- 1999年 昭和大学 卒業
- 2000年 御代田中央記念病院
- 2003年 昭和大学大学院外科系眼科学 修了 (医学博士)
昭和大学 員外助手
- 2005年 比嘉眼科病院
- 2007年 昭和大学 助教
- 2009年 米国カリフォルニア大学アーバイン校留学 客員研究員
- 2013年 昭和大学 講師
- 2014年 昭和大学 准教授
- 2018年 昭和大学医学部眼科学講座 主任教授
- 2020年 現在に至る

専門分野：外傷性眼疾患 (眼窩骨折、外傷性視神経症)、
白内障手術、眼形成

日本産業労働交通眼科学会 理事長
日本眼形成再建外科学会副 理事長

A series of horizontal dashed lines for writing.

一般講演

アルブミン懸濁型パクリタキセルが原因と考えられた 両眼性黄斑浮腫の一例

○平野 彩、和田 清花、西崎 理恵、砂川 珠輝、小菅 正太郎、上條 由美、
岩渕 成祐

昭和大学江東豊洲病院 眼科学講座

【緒言】 アルブミン懸濁型パクリタキセル(アブラキサン[®])は、乳癌、胃癌、非小細胞肺癌、
治癒切除不能な膀胱癌に対する抗悪性腫瘍剤である。今回、治癒切除不能な膀胱癌に対する塩酸
ゲムシタピン(ゲムシダピン[®])との併用において、両眼黄斑浮腫を発症し、アブラキサン[®]
中止により速やかに黄斑浮腫の消失を認めた症例を経験したため報告する。

【症例】 76歳女性。両眼白内障、両眼ドライアイにて近医眼科にて点眼加療されていた。
9ヶ月前の前医受診時、矯正視力は両眼1.2であった。1ヶ月前から両眼の中心視野異常、霧
視を自覚したため、前医再診したところ、矯正視力は右0.9、左1.0、眼底三次元画像解析に
て両眼黄斑浮腫を認めたため、腫瘍内科で通院中である当院の眼科に紹介となった。初診時
に行った蛍光眼底造影検査にて、アブラキサン[®]が原因の黄斑浮腫と診断し、腫瘍内科に連
絡してアブラキサン[®]を中止したところ、1ヶ月後には両眼黄斑浮腫は消失し、矯正視力両
眼1.2に回復した。

【考察】 今回は、患者が眼科通院中であり、アブラキサン[®]を使用中であることを伝えたこ
とから、早期発見され早期中止となり、後遺症なく回復することができたと考えられる。

【結論】 アブラキサン[®]の副作用として、黄斑浮腫をきたすことがあり、投与中止で黄斑浮
腫は速やかに消失した。癌治療担当医は患者に眼科的副作用について説明し、眼科医と連携
することが重要であると考えられた。



Handwriting practice lines. Each row consists of a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line. There are 22 such rows.

第62回日本産業・労働・交通眼科学会 予稿集

会 長：岩渕 成祐(昭和大学江東豊洲病院眼科 教授)

事務局：昭和大学江東豊洲病院眼科学講座

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL：03-6204-6230 FAX：03-6204-6998

E-mail：iwabuchi@med.showa-u.ac.jp

URL：http://square.umin.ac.jp/eosj62/index.html

発 行：日本産業・労働・交通眼科学会

印 刷：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://www.secand.jp/>

第62回日本産業・労働・交通眼科学会
事務局

昭和大学江東豊洲病院眼科学講座

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL: 03-6204-6230

FAX: 03-6204-6998

E-mail: iwabuchi@med.showa-u.ac.jp